

2025 年歴史教育者協議会 全国大会 8月2日～3日

第76回 東京大会

大会テーマ

戦後 80 年の歴史に学び、平和をきりひらく



2025 年の歴教協全国大会は、大会参加者 461 名で成功裏に終えることができました。明治大学の会場に集った全国のみなさん、オンラインで参加したみなさん、ありがとうございました。開会集会・全体会から閉会集会まで、大会の熱気を紹介します。

◆記念講演 〈戦後 80 年〉に考える戦争記憶の継承と平和の創造への歩み

講師 山田 朗（歴史教育者協議会委員長・明治大学教授）

冒頭、大会テーマ、講演テーマに謳う〈戦後 80 年〉という区切り、そのものについて有効性と限界性を語る講師の言葉に、これから講演を聴く側として、慎重な誠実な「聞き方」を示されたようで、会場が引き込まれていった。そして本報告の「四つの課題」として、

○戦争加害と被害の記憶の継承→戦争・植民地支配・暴力の「循環」としての日本の〈戦前 77 年〉から、導かれる教訓とは何か？

○東京大空襲・沖縄戦・原爆被爆→何故にこれほどのジェノサイドが生まれたのか？

○戦争否定と植民地支配忘却の〈戦後 80 年〉→戦争否定=平和主義思想の基盤は何であったのか？ 植民地支配の忘却という問題を克服するためにはどうすればいいのか？

と、課題を示した上で、

I 戦争と植民地支配の教訓

II ジェノサイドを生んだ原因

III 戦後における平和主義思想とその発展

IV 戦争記憶・植民地支配の記憶の忘却をどのように克服するか



と、順に課題を解き明かし、深め、そして〔1〕消去的平和主義から平和創造を軸とする積極的平和主義への転換を。そのための歴史認識・歴史教育の重要性。〔2〕被害者にも加害者にもならないための記憶の継承をと講演をしめくくった。

今を生きる教育者として、責任を負い、また背中を押される素晴らしい講演。ぜひ、講演記録が掲載される『歴史地理教育 11 月増刊号 東京大会特集号』を読んでいただきたい。

〔参加者の感想より〕

・とても分かりやすく良かったです。特に国内の死者の位置づけ、「戦後の平和を目指すために亡くなったのではない。そんな理念とは無関係である。むしろ、その人たちの犠牲への悔恨が平和を作ったのだ。残された人々の絶望・苦難を想像しなければならない」という指摘は、今後の平和教育の大きな示唆になったと思います。

・「戦後 80 年」と区切る言葉に違和感があり、冒頭に説明してくださったので、安心して聞き始められた。植民地支配、差別、隠蔽、仮想敵、内敵を作り出すことは戦争に欠かせないこと、国内で絶対に出来ないことは植民地でやること、加害と被害が PTSD を生み DV に繋がり、戦争が起こしたものが家庭に閉じ込められて行くこと、天皇の戦争責任が突き詰められなかったこと、限られた時間での濃縮された講演に、いつもながら魅了された。被害者にも加害者にもならないために、これからも歴史認識を深め、誰も排除しない温かな社会を構築する一人でありたい、と思った。

◆170 本を超える研究・実践レポートで盛り上がった「分科会」

歴教協全国大会の醍醐味は、なんといっても「分科会」。今年は、170 本を超える報告が全国から集まった。初参加の若い会員のレポートも多く、どの分科会でも熱気あふれる議論が交わされました。参加者の感想から、分科会のようすを紹介します。

01 地域の掘り起こし

教員の方々が地域に根ざして研究していることを実感しました。いっぽうで、同年代の人々が朝鮮人虐殺の出来事自体を知らないことがあるなど、教育の場における空白も気になります。諸研究・調査がどのように授業に活用されていくのか、注目したいところです。

02 日本前近代

地域に学ぶ、地域から学ぶことの大切さを感じました。何よりも生徒に教える前に教師自身が自ら楽しく歴史を学ぶことが大切だと先輩方から感じました。

03 日本近現代

はじめて「日本近現代」分科会に参加しました。充実の 6 本のレポートでした。学ぶところがいっぱいあり、まだ十分消化しきれませんが 2 学期以降の授業ですぐに使ってみたい、利用してみたいというところがたくさんありました。

04 世界

最も今回興味をもったのは、「グローバルヒストリー」についてです。自分は世界史は各国史のまとまりではない学術の一部と理解しています。外国史セットではない世界史、それがグローバルヒストリーなのかは分かりませんが、もう少し専門的な進展を期待したいです。

05 憲法と現代の社会

生徒が主体的に活動できるようにするには、授業で扱う内容も工夫が必要ですね。タブーしされていることを実践で扱う勇気も必要です。現在の世の中から教材を見つけて実践していきたい。

06 思想・文化・文化活動

「戦争」は守らなければ消えていく」の部分で触れていた戦争遺跡を守ろうとする地域の人々の思いが素晴らしと感じました。友の会と行政の考え方についても考えさせられました。

07 現代の課題と教育

星さんの報告では社会科教育学者らしい、授業の作り方で方法面で参考になりました。内容面については、北海道内のアイヌをめぐる緊張関係等は初めて聞きました。また、最後の

授業化の暴力性に関わる議論は私も「はっと」させられました。

08 平和教育

沖縄からのお二人の報告は戦争体験の希薄化に対して教育の力で、連帯しながら継承する取り組みを、また埼玉と広島のお二人の報告は現実に進行している非平和の企てを、今アンテナをきちんと貼って見つめる視座を、学ばせていただきました。ありがとうございました。



09 幼年・小学校低学年

戦争や平和を考えること、他文化を交流することは最初とても難しかったが、小二でもこんなに考えられると思った。文化では子ども一人一人の感性やイメージが作品として出てくることがすばらしい。文化を知ることとも平和につながると思った。

10 小学校3・4年／11 小学校5年

3,4,5 年が合わさったため、かなりの盛り上がりとなってよかったです。栗原実践、手島実践いずれも若い先生方の実践には希望がもてました。子どもたちの声を聴きながら、強かに教育していくことの大切さを改めて学びました。



12 小学校6年

戦争についてそれぞれの地域の実態に合わせて、実践を展開されているところが大変勉強になりました。地域教材の掘り起こしなどやることがたくさんあると思うと同時に夏休み中に教材研究を進めたいという意欲がわいてきました。ありがとうございました。

13 地域の中の子どもたち

全く新しい分野で多様な課題を知れた。「今だけ、金だけ、自分だけ」の現状の政治をどうやって解決していけるのか？少数で意見交換でき、参考になった。

14-1 中学校（地理と分野をこえた社会科）

炎上した『コロンブス』に子どもたちが質問したことをきっかけに授業内容の着想を得るところが素晴らしい。アメリカ人ってどんな人？平井さんの発問に、子どもたちがゆさぶられていくさまが心地よい。〇〇人と括ることは何の意味もないことが体感される。排外主義にしなやかに、鮮やかに対抗する授業に感動でした。

14-2 中学校（歴史）

社会科の授業づくりの実態を具体的にお話してくださりととても勉強になりました。先生方のお話を聞いていると自分も知りたいと思うことが多々あり思わず調べてしまいました。生徒の心を揺さぶる教材や問いを用意して構成を工夫することで、今日私自身が感じた、歴史に関しての興味関心を高め知的好奇心を育むことができるように感じました。

14-3 中学校（公民）

どの発表も刺激的で勉強になりました。若い会員の方の発表は、何物も恐れずチャレンジする姿に感銘を受けました。ベテランの方々の発表からは生徒との距離感について学ぶこと

が多かったです。模擬投票は、2 学期頑張って実践してみようと思います。

15 高校

滝澤民夫さんの報告は歴史総合のあり方を考えるうえで、また、若い世代にも大いに参考になる内容だった。

16 大学

齋藤先生の現場の実態を認識させるというコメントから、改めて歴史対話というものについて考えさせられた。

17 障がい児教育

今回初めて分科会に参加した。学生として、教育現場の実態、子どもたちの様子を知ることのできる機会は少ないので良い経験になった。特別支援教育については、介護等体験などでしか実態を理解できる学びの機会はない。

19 社会科の学力と教育課程

主権者教育は、模擬投票等の経験で終わるのではなく、生徒としての自立意識と並行した主権者教育を目指すべきだ。

20 授業方法

授業方法を論ずる際は、教員側がその教材に対して自分ごとになっていないと、生徒に自分ごとにしてもらう仕掛けをつくれなことを実感した。生徒の実態と教員の目標をすり合わせるのが授業方法であることを踏まえて、生徒目線の教材開発の必要性を再認識した。

特設 高校「歴史総合」

どの報告も、総合から探究へ、というテーマが意識されていたため、報告のみならず協議も充実したものになりました。新カリキュラムの 3 年が終わったところで歴史総合の特設分科会を設けた意味は非常に大きかったと思います。

◆地域に学ぶつどい

分科会につづき、夕刻には大会開催地ならではの地域に根ざしたテーマで学ぶ「地域に学ぶつどい」が開かれる。2 年つづけての東京開催とはなったが、山梨、東京、神奈川、埼玉各歴教協が魅力的なテーマと講師を準備してくれた。また、教科書問題、日韓交流、日中授業交流と、継続して学んでいる会など、やはり毎回の歴教協大会で楽しみな企画だ。参加者の声を紹介しよう。

01 山梨平和ミュージアムの開設と 18 年間のとりくみ（山梨県歴教協）

組合の平和フィールドワークに行くところを探しています。ここが候補になりそうです。石橋湛山は話題になっているけど自分は知りませんでした。ぜひ行きたいです。風をおこす。これを静岡市に持ち帰ります。

02 日中韓 3 国共同の教材づくりー経緯と今後の課題（東京歴教協）

日中韓で歴史を紡ぐ営みを紹介してくださり、大変興味深くお話を聞かせていただきました。提示頂いた論点は、近現代史を教えるために教材研究をする上で大切にしなければならない点だとも感じています。東アジアという視座のもとで教材を作成し、授業をする意義をあらためて学ばせていただきました。ありがとうございました。

03 歴史がつまったこの街をともに歩く！～横浜・神奈川から考える～（神奈川県歴教協）

小川さんのダイナミックな実践に感動しました。地域に視点を当てて朝鮮学校やマーシャルとの交流は簡単なことではないでしょう。負の歴史から現在の私たちにとっての生きるための歴史への転換には考えさせられました。自分なりに解釈して実践に生かそうと思います。佐藤さんが育っていることにもうなずけます。これからね佐藤さんの活躍にも期待しています。ありがとうございました。

04 神奈川の戦争遺跡から、捕虜虐待と民間人抑留の実態を追究する（神奈川県歴教協）

捕虜の虐待があったことは知っていたが、日本でも収容所があり、企業と連携して強制労働があったことは初めて知りました。こういった「加害」の歴史は、なかなか明るみにまらず、隠してしまうものをこれだけ調査して、まとめられていることはとても価値のあることだと思います。私も福岡県の宇美町で行われた中国人強制労働を教材化しました。これらの加害の面を扱うことで、子どもたちに「戦争とは、平和とは何か」を考えつづけることが大切だと改めて実感しました。

05 愼蒼宇さんと学ぶ 102 年目の関東大震災・朝鮮人虐殺（埼玉歴教協）

関東大震災の朝鮮人殺害について、102 年前の日本人たちは、なぜこんな残虐なことができたのかと、生徒たちに尋ねても、なかなか、答えを出すことができない中で、「植民地戦争」という考え方は、とっても説得力のある考え方だと思いました。この考え方について、さらに追求していくべきだと感じました。

06 教科書問題—観点別評価をどう考えるか（子どもと教科書全国ネット 21）

観点別評価の実態について、ご教示いただきありがとうございました。教員歴の浅い中で、自分たちが日頃行っている「評価」というものが、生徒個人の人生において如何なる意味を持つのか、理解が及んでいなかったことを痛感しました。主体性(意欲)は本来学びの過程の中に内包されているものであり、現在国が指定している在り方では本来ないものであるということを知りました。

07 日韓交流—2024 年 12 月尹大統領戒厳令発令と学校現場での取り組み（日韓交流委員会）

戒厳令が出された後に、すぐに授業を考えられた韓先生はすごいと思いました。民主主義を守るためには何が必要か、また何をしなければならないか、中立的な立場を取りながら進められたのは参考になりました。韓国の先生の思いが聞けて良かったです。

08 日中授業交流—南京からの高校の授業実践報告（日中授業交流委員会）

中国の先生方とオンラインでつながるという貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。私が思っていた「愛国教育」と中国の先生のおっしゃる「愛国教育」は雰囲気は違っているという印象を受けました。いただいた資料から、さらに学んでいきたいと思っています。

◆閉会集会

「今日の学びを学校に持ち帰り、授業に生かしたい」「歴教協の例会など日々の研究をもっと活発にしたい」と参加者の声にお互いに励まされました。そして、拍手でレポーターやスタッフをねぎらい、そして来年の開催県「滋賀」のみなさんにバトンを渡す、そういう閉会集会でした。閉会後は、参加分科会以外の全レポートも持ち帰ることができる(ドライブでも読むことができる)ということで、こんなレ

ポートもあったんだと他分科会のレポートを手に取り、カバンにつめる参加者。「来年もまた！滋賀で！」とお互いに挨拶を交わして帰路につきました。

- ・昨年に引き続き 2 回目の参加でしたが、素晴らしい実践報告を聞くことができ、大変勉強になりました。今後も参加したいと思います。
- ・来年、絶対「滋賀大会」に行きます！頑張ってください！！

◆一夜明けて「現地見学」コースへ

ともかくフィールドワークが大好きな「歴教協」会員たち。暑いのに、歩く、歩く！熱中症用心で上手に休息しながらの見学。こんなに身近なのに、知らなかった、知ってたけどそんな背景が。今大会では、富士国際旅行社とのタイアップ企画も含め6コースありましたが、A、B コースのようすを紹介します。

A コース 東京駅丸の内界隈の歴史散歩

東京に暮らしながら知らなかった東京駅周辺の歴史が、東海林さんの説明でよみがえりました。丸の内の原敬暗殺現場から出発。巢鴨遺書編さん会が作ったという巨大な「愛の像」。天皇に忠義を尽くした人物であるため金属供出を免れた皇居前広場の楠木正成像。丸の内オフィス街の一丁ロンドン、一丁ニューヨーク、重要文化財である明治生命館、旧日本工業倶楽部会館にあった「坑夫と織女像」は、三菱UFJ本店玄関軒上に保存されて。丸ビル 35 階からの展望は、まさに空中散歩。軟弱地盤に建てたため、長さ 15m の松杭 5443 本に支えられたとのこと。現物の 1 本に見入りながら辺野古のことを思いました。汗を拭き拭き、熱心に聞き入った 3 時間でした。



B コース 英連邦軍の捕虜達 1700 人はどこで、どのように死んだのだろうか？

この墓地（横浜市・英連邦戦死者墓地）には主にアジア太平洋戦争中、日本国内の捕虜収容所で死亡した英連邦（イギリス、オーストラリア、カナダ、インド、ニュージーランドなど）兵士約 1720 人が葬られている。

案内してくださったのは、POW研究会の笹本妙子さん。笹本さんはこの墓地の墓をひとつひとつ丁寧に調査、墓に眠る兵士や軍属（一部民間人）の来歴、エピソードの掘り起こしをされている。実際に来歴のよくわかる何ケースかについてその墓の前に行き、笹本さんからエピソードを聞いた。ひとりひとりが現在に生きる私たちに本当は生きていたかったと語りかけてくるような感じがした。



英連邦は当時の敵地である日本にこうして一人一人の墓をつくった。一方侵略していった地域で戦死した兵士の遺骨すらそのまま放置している日本。その差はなんなのか。お墓の前で考えさせられた。